

茶道との出会い

荒尾市立荒尾海陽中学校二年（熊本県）

坂口 結萌

私は得意なことはあるが、どれも中途半端で終わってしまふ。茶道部に入部したきっかけは家が近い先輩からの話を聞いてからだだった。最初はそこまで興味はなかった。部活は出来るだけ入っておいた方がいいし仲のいい子が入部すると言ったのが一番の理由だった。私は一回入部するだけで満ぞくしてしまう。どうせ頑張っても上には上がいる。そこまで一生懸命やる必要はない。と心が冷めていた中学一年生。人間関係もそうだ。どんなに信頼している友達でもすぐに裏切られる。だから猫をかぶっている上っ面だけの関係でいい。一緒にいる人は自分を分かってくれてる人だけで十分だ。他人に興味はない、自分をかくしながら学校生活、つまらない毎日。体験入部に行くと、そこは静かでも心がおちつくところだった。先生や先輩の話を聞いていると、だんだん茶道についてもっと学びたくなった。体験入部の帰り、同じ小学校のときの友達四人と入部する

か話した結果、みんなが入部することに決めた。それから学校生活はそれなりに楽しかった。放課後毎週金曜日以外の茶道部が一番の楽しみだった。どんなに疲れていても先輩が点ててくれたお茶を飲むだけで疲れがとれていった。最初は帛紗さばき。テレビを見て先輩に教えてもらおう。失敗しながら毎日お稽古をした。おしゃべりしながらお点前したりして怒られながらの楽しい茶道が大好きになった。一年が過ぎ二年生になった。コロナでなかなか出来ないなか初めてのお茶会に参加した。お茶を飲んでもらえると必ず「おいしかった」と言ってくれる。その一言が一番うれしかった。お客さんとは一生に一度の出会い。その時間は二度と巡ってはこない。誠意をもち最善を尽くしてもなす。その言葉を聞いて思い出した。私の名前の由来には「人と人との結びつきがよくありますように。出会いを大切に」という意味があるそうです。うろ覚えですが。私が茶道と出会ったのも友達と出会ったのも大切な人と出会えたことも運命。いつもは手を抜きながらのお点前。おしゃべりしながらもあたり前なお稽古。でもその言葉を聞いてから猫をかぶって自分をかくしながらの人間関係も自分の冷めた性格もおしゃべりしながらのお稽古もおそうと思つた。人が何かに出会うのも運命なわけで…。道は決まってもその道のりを自分で選択していく。限りある環境でひたすら頑張ろうと思った。この気持ちにさせてくれた言

葉、今までなんとなくしか思っ
てなかった自分の名前に感
謝しています。これから真剣
にお稽古を頑張ろうと思いま
す。